

Title	Ralph H. Blodgett, Cyclical Fluctuations in Commodity Stocks. 1935.
Sub Title	
Author	山本, 登
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1935
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.29, No.8 (1935. 8) ,p.1237(171)- 1243(177)
JaLC DOI	10.14991/001.19350801-0171
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19350801-0171">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19350801-0171</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

Ralph H. Blodgett, Cyclical Fluctuations in Commodity Stocks. 1935.

山本 登

本書は米國に於ける景氣循環研究の一權威たる國民經濟調査局 (The National Bureau of Economic Research) に於て W. C. Mitchell 及其の協力者の採用せる循環的分析の方法を用ひて商品貯藏量の循環的態様を分析せんと試みたものであり、商品貯藏量に關する統計材料の分析により景氣循環の期間に於ける其の態様、及事業の循環的變動に於ける種々の商品貯藏量の相對的重要性を明かにし、以て景氣循環學說上に占むる商品貯藏量の性質及意義を理解する基礎を與へん事を目的として書かれたものである。

景氣循環を取扱ふに際しては、理解的研究と共に統計的研究が必要なる事は今日既に一般に認められた所であるが、本書の著者も亦、自ら景氣循環の重要な一要素と認める商品貯藏量に就て、兩方面より之を扱つてゐる。此の場合商品貯藏量と言ふのは生産及分配の過程の凡ゆる段階に於て保有される種々なる商品の量を意味し、從つて究極の消費者を始め、小賣商、卸賣商及生産者の手許に在る完成品の貯藏量、並びに生産者の手許に在る原料、半成品の貯藏量を含んでゐる。

第一章に於ては理論的研究が爲され、先づ價值論と關聯して考察されるが、短期即市場價值の分析に於ては一定の商品の供給は一定期間、其の貯藏量に依存するが故に、之は商品貯藏量が異なる價格で種々の分量の賣却される理

由を與へるが長期に就て見れば生産は需要に一致せしめられるが故に商品貯蔵量は存しない事になる。併し、實際に於ては商品貯蔵量は常に現存し、現代經濟組織の重要な一特質を爲してゐる」(四頁)。次に、一般に景氣循環學說に於ては普通主として小賣商及卸賣商の手許に在る商品貯蔵量が考察されてゐるが、著者は之を以て不十分なりとし、更に分析を擴大して、消費者、小賣商及卸賣商の購入及商品貯蔵量に就て比較を爲し「事業狀態の變化に從つての、購入及商品貯蔵量の變化は卸賣商に最も多く起り、小賣商之に次ぎ、消費者に最も少く起る」(八頁)と結論する。

次いで著者は商品貯蔵量の循環的態様に關する凡ての論述に於て二種の貯蔵量、即ち(A)生産者の手許に於ける完成品及(B)其の生産に使用される原料並に半成品の貯蔵量が無視されて居る事を力説するが、此の點に關し最近之等の貯蔵量が卸、小賣商の保有する貯蔵量に迫つて來て居る事實からしても妥當な見解と云へるであらう。而して、之等の貯蔵量の變化は卸、小賣商の貯蔵量の増減と必ずしも同時でなく、更に又原料及半成品の場合には生産の繼續を計る爲めに蓄積されるので、生産者の完成品の貯蔵量の變化とも時期を異にする。所で本研究は主として生産者の手許に於ける完成品、半成品及原料の貯蔵量に關し其の循環的態様を研究して此の態様の型及意義を説明せん事を試みるのである。

第二章に於ては本研究に含まれる種々なる商品貯蔵量分析の統計的方法に就て、簡単に述べ、材料は凡て月別系列で示され其の多くは明瞭なる季節變動を示すが故に先づ此の變動が除去される。斯くて修正された材料が得られた場合には、之等の系列に於ける循環的變動の研究は、(一)各系列の Specific Cycles の分析と、(二)所謂 Reference Cycles と稱する期間に於ける各系列の態様の分析の二方面に分たれる。Specific Cycles は商品貯蔵量の系列その者

に起るものであり各系列によつて平均的繼續期間、大きさ及型を異にし、又一循環毎に、長さ、大きさ、型を異にする。之に對し、Reference Cycles は何等かの他の經濟的過程若くは諸過程に於ける活動の繼續的な恢復衰退の年又は月を示す日附である。「此の Reference Cycles の使用は商品貯蔵量の時系列と此商品の生産及價格更に一般事業活動に對する時系列との直接の比較を含むものでなくして、一般事業及其商品の生産並に價格に於ける循環として Reference Cycles により示された期間を通じての各商品貯蔵量系列の態様の研究によつて比較は爲されるのである。」(一七頁)。而して、各貯蔵量系列中に於ける Specific Cycles の取扱は、其の生産、價格及一般事業の Reference Cycles を通じての其系列の態様に關して見出される所のもの、及生産、價格、一般事業に於ける循環に對する貯蔵量系列の循環の一致に依存するが故に循環的方法を適用する最初の段階は Specific Cycles の研究に直ちに取掛るよりは Reference dates を以て示された、是等の Reference Cycles に於ける膨脹、收縮の期間を通じての貯蔵品系列の態様を研究する事である。

一般事業の Reference Cycles の期間中の各商品貯蔵量の態様の研究には先づ各 Reference Cycles を九つの部分に分つ。其の中六部分は各循環にとつての膨脹、收縮の期間を夫々三分して之を得、他の三部分は最初の恢復月、沈滞の月、及最後の恢復月である。此の九部分に對し各商品貯蔵量に就て計算された移動平均よりの偏差を求め、斯くて、得られた九つの數値を、其の Reference Cycles に於ける貯蔵量系列の平均値を以て除した結果を%で現はしたものが當該 Reference Cycles に對する貯蔵量系列の態様を示す事になる。此の方法は又一般事業の種々の Reference Cycles を通じて、異なる貯蔵量系列の態様を比較する事を容易ならしめる。

第二の方法は一般事業の Reference Cycles に對して各貯蔵量系列より得られた九つの數値より求められる。此

の方法は「一致指数 (indexes of conformity)」と呼ばれ Reference Cycles と各貯蔵量系列の態様の相關關係を示すものである。之には先づ各 Reference Cycle の連続的な九局面の間の八つの變化の上昇的か下降的かを求め、其中より膨脹期に歸せられる期間を定め残りを收縮期の期間とする。而して各系列の態様を此の期間と比較する事によつて各系列が一般事業の循環的變動に對し、順若しくは逆の循環的變動を有するかを定めるのである。それには最初 Reference Cycles の膨脹期及收縮期に歸せられる變化が定められた時に其の變化の代數値を求め、一般事業の膨脹期に増し、收縮期に減る系列は「+」其の逆は「-」増減なき時は「0」を以て示される。最後に指數を得るには、膨脹期、收縮期及全循環に對して求めた正及負の代數値の合計を含まれた Reference Cycles の數で割り、之に 100 を乗ずる。斯くて一致指數は +100, +100, +100 及 -100, -100, -100 等々の組合せを生じ、此の場合前者は完全な順の一致、後者は完全な逆の一致を示す。斯くて貯蔵量系列の循環的變動と一般事業のそれとの間の相關關係の程度が明らかとなり、同様な事が生産及價格の Reference Cycles に對して爲される。

以上の外、各商品貯蔵量そのものに於ける循環的變動の性質が問題となる。即ち Specific Cycles と呼ばれる自身の循環に於て各貯蔵量系列が如何なる態様を示すかである。而して之は又一般事業の Reference Cycles と、轉換の時、膨脹收縮の期間、及全循環に就て比較される。

斯かる研究の材料として著者は米國に於ける三十五種の商品貯蔵量を選び之を次の三グループに分つて居る。(二五頁) 即ち、

(一) 主として工業的消費者の手許に於ける原料並びに半成品。

(二) 生産者の手許に於ける完成品の不均衡的貯蔵量 (the disparity stocks) 即ち其の循環的變動は一般事業のそ

れに逆の關係を示す。

(三) 生産者の手許に於ける完成品の便宜上の貯蔵量 (the convenience stocks) 即ち其の循環的變動は一般事業のそれに順の關係を示す。

以上の如き研究方法と材料に依つて、前掲の (一)・(二)・(三) に就て、夫々章を分つて一般事業、生産及價格の Reference Cycles に對しての相關關係及各々の Specific Cycles の變動が詳細に扱はれて居る。

而して、生産者の手許に於ける原料及半成品の場合に於ては、其の貯蔵量の循環的變動を齎らす最も一般的な原因は是等の材料の消費に於ける循環的な變動であり、多くの工業の商品貯蔵量は消費に對して逆の、従つて一般事業に逆の關係を示し、事業膨脹期に於ける消費の増加につれて、貯蔵量は減少し、事業收縮期に於て其の反對となる。而も其の逆の程度は高く、斯かる工業は又、生産及價格の Reference Cycles に對しても大體同様な關係を示す。他方少數の工業は消費、従つて一般事業に順の關係を示すが其の程度は低い。又逆型のグループに於ける貯蔵量の循環的變動は一般事業のそれを lead する傾向を有し、其の Specific Cycle は順型のグループより大である。

更に完成品の貯蔵量に於ても順逆の二つのグループが存し、逆型のもは一般事業、生産及價格の循環に關して低い程度の關係を示す循環的變動を有する。此の低い程度は各 Reference Cycle に於ける之等の系列の不規則的な態様に基き、又之等の貯蔵量の不均衡性を示すものである。之に反して、順型のグループの貯蔵量系列は Reference Cycle 毎に其の態様が規則的なるが故に、「一般事業、生産及價格の循環に關し高度に一致した關係を示す。而して是等の貯蔵量は一般事業の變動を lead する傾向を有し、Specific Cycles の點に關しては逆型のグループの方が順型のグループより大である。斯くて「商品貯蔵量の循環的態様に於ては秩序と規則性が存在しない」(101

頁)事が明らかとなる。

而して景氣循環に於て全體としての商品貯藏量の演ずる役割の性質及重要性に關しては、卸賣商、及小賣商の保有する商品貯藏量は一般事業の循環的變動に順の關係を有する循環的變動を示し、次に生産者の保有する種類の貯藏量の場合に於ては逆の關係を示す貯藏量が順の關係を示す者より數が多く、又其の循環もより活潑であるが故に「生産者の手許に於ける完成品及材料の貯藏量は一般事業の Reference Cycles に對し逆の循環的態様を示す傾向を有す」(一〇四頁)と云ひ得る。更に、一般に商品貯藏量の態様は一般事業に於ける循環的變動と關聯して重要な原因的要素を爲す。蓋し事業膨脹の後期に於ける商品貯藏量の蓄積は、註文の減少となり、順型の商品を生産する生産者の作業率短縮となつて一般事業に影響を與へるからである。一方、逆型の商品は斯かる役割を演じないが、事業沈滞期が永續する場合には、生産の停止により順型に轉ずる事に注意を要する。

終りに、商品貯藏量の問題を價值論に導入する事の困難なる事は前述した所であるが、洵に動的な實際經濟生活に於ては長期の價值論に於けるが如き生産と需要の間の理想的調整は實現される事なく、工業の作業は需要と供給の平衡點の上下に變動し、本研究の見地より見て是等の變動中最も重要なものは循環的變動である。而して如何なる場合にも商品貯藏量は存在し、工業の作業上重要な要素たる地位を失はないのである。

斯くて、總括的に見て「異つた率で循環的に進行する事が必要な、又は望ましい經濟的諸過程間の緩衝器として働く事が商品貯藏量の一般的な循環的職能である。」(九四頁)と結論される。

以上景氣循環の一要素たる商品貯藏量に注意を集中し、殊に貯藏量の意味を廣く解して、從來屢、無視された生産者の手許に於ける原料、半成品及完成品の貯藏量に關し理論的並びに實證的に詳細なる分析を試み、以て景氣

循環上に於ける商品貯藏量の本質並に意義を明かにした點に於て、本書は、假令著者自らも認める如く、統計的材料の不備は免れ難きものにせよ、同好の研究家にとつて幾多の有益なる指示を含むものと言へるであらう。尙卷末には附録として圖表による詳細な説明が與へられ、綿密なる研究家に對して貴重なる材料を提供して居る。

(一九三五・六・二三)